

マンガ大賞
Cartoon grand prize
2013 マンガ読みが選ぶ2012年の一推!

報道資料

2013年3月21日


マンガ大賞 2013決定！マンガ読みが選ぶ 2012年の一推は

「海街 diary」 吉田秋生

©吉田秋生 / 小学館

89pt



ありがとうございました。
みんなでいただきます。
吉田秋生 

マンガ大賞 最終選考ノミネート作品

※ポイントの集計方法は

1位→3pt 2位→2pt 3位→1pt の投票された数の合計によって決められています。

78pt

『乙嫁語り』
森薫

78pt

『ボールルームへようこそ』
竹内友

62pt

『ハイスコアガール』
押切蓮介

58pt

『俺物語!!』
原作：河原和音 作画：アルコ

40pt

『暗殺教室』
松井優征

36pt

『九井諒子作品集 竜のかわいい七つの子』
九井諒子

35pt

『人間仮免中』
卯月妙子

30pt

『テラフォーマーズ』
原作：貴家悠 作画：橘賢一

29pt

『山賊ダイアリー』
岡本健太郎

29pt

『ぼくらのフンカ祭』
真造圭伍

このたび、書店員を中心にした各界のマンガ好きが選ぶ、2012年の一推しマンガ、マンガ大賞2013が決定し、第6回目、本年度のマンガ大賞が、



『海街 diary』吉田秋生

に決定致しました。
お知らせ致します。

選考員は、
第1次選考には、103名が参加。
第2次選考は、94名が参加。
選考員の方は、すべて、ノーギャラ・ボランティアで、
のべ数千冊のマンガを読み、選考をしていただきました。

○選考について

選考対象：2012年1月1日～2012年12月31日に単行本が出版された作品で、
最大巻数が8巻までのマンガ作品。

選考方法：

第1次選考：各選考員が、「マンガ大賞」に推薦したい作品、最大5作品を選考。

第2次選考：第1次選考で投票数が多かった10作品をノミネート作品とし、
(本年度は、同投票数の作品があったため、11作品がノミネート)

選考員は、全ノミネート作品を読んだ上で、上位3作品を選考し、
集計の上、「マンガ大賞」を決定。

○ミュージコミ+マンガ大賞スペシャル

3月21日24時から放送！

<FAQ>

Q. どういう動機で始めたんですか？

A.
年間に何百冊もマンガを読む読者は、
「これはぜひ、他の人にも読んでもらいたい！」と思うような、
面白いマンガに出会うことがあります。

一方で、マンガは、年間およそ一万点の新刊が出版され、
ただでさえ選択肢が多いのに、
書店の店頭では、ビニールがかけられていて、
店頭で、試し読みができない場合も、少なくありません。

そこで、面白いマンガを周りのひとに宣伝したい読者が、
「このマンガはこんなに面白いよ！」と、
マンガに興味はあるけれど、
それほどティープではないひとに伝えるために、始めました。

いろんな方が、マンガ大賞をひとつのきっかけに、
面白いマンガに出会ってもらえたら、幸いです。

あと、マンガ読者として、ほかのマンガ読者の意見を集めることで、
面白いマンガを見逃さずに、貪欲に読みたい！
という気持ちもあります。

Q. 選考員は、どうやって選んでいるの？

A.
今回に関しては、
普段からマンガの現場でマンガに接している実行委員会のメンバーが、
「この人はマンガに対して熱を持っている！」
と直接呼び上げてくださる方に、声をかけて、集まって頂きました。

なお、マンガが売れることに直接の利害関係がある
マンガ家さん本人や、編集者の方、ブックデザイナーの方は、
公正を期するために、選考員にはなっていただいていません。

Q. なぜ、投票対象が、8巻までなの？

A.
だいたい、一番単行本が出るのが早い週刊連載で、
3ヶ月に1巻、新刊が出版されます。年に4回x2年で、8巻です。

それだけの期間があれば、
人に勧めたいマンガの面白さは、発揮されていると思います。

逆にそれ以上の長さのものは、
面白さは世間に知れ渡っているだろう、
ということで、8巻までを対象にしました。

あと、これ以上長いと、
気軽に手に取るには、ちょっと量がありすぎるかな、
というもあります。

Q. 運営のコストはどうなっているの？

A.
公正を旨とする企画意図からして、
営利を追求することはなじまないもので、

サイトのデザイン、運営、ロゴ制作、ほか、
すべて、趣旨に賛同してくださった方をお願いして、
ボランティア、ノーギャラです。

選考員の方、ほか協力スタッフの方、
「マンガの話をしながらか酒が飲みたい」を合い言葉に、
皆さん手弁当で参加して頂いております。

Special thanks.
ロゴデザイン：関善之



ありがとうございました。
みんなでいただきます。

吉田秋生 